

【主題】 自己理解・自己管理能力を育むカリキュラム・マネジメントの推進

【副題】 生徒、教師、保護者、地域が相互にパートナーとして一体となり、いい音を響かせ愛を育む学校づくりを目指して

【学校名】 白山市立北辰中学校

【役職名・氏名】 校長 才鷹 浩子

I. はじめに

本校は、昨年、創立40周年の節目を迎えた。開校以来の校訓「志あり目覚めありて行え」のもと、6072名の卒業生が巣立ち、社会で活躍されている。現在は、校舎の前にそびえ立つ「北辰の塔」に見守られ、13学級386名で、日々、勉学に励んでいる。校名の「北辰」とは、北極星を意味する。また「辰」とは、目標になる星のことでもある。生徒たちには、北辰の名に恥じないよう、自覚と誇り、夢や希望をもって取り組んでほしいと願う。

学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策として、カリキュラム・マネジメントの重要性があげられる。本校においては、生徒の実態や地域の実情等を踏まえて、教育目標「目標をもち自ら学び 心豊かで たくましい生徒の育成」を実現するために、学習指導要領等に基づいた教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかというカリキュラム・マネジメントの充実を図っている。校長を中心として、教科等の縦割りや学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことが求められる。そのためには、教職員がその必要性を理解し、日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む必要があると考える。

II. 研究主題設定の理由

本校の生徒の実態については、全国学力学習状況調査の質問紙調査等の結果から現状を把握することができる。令和4年4月実施の調査では、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答をした生徒は「54.2%」、「自分には良いところがある」の項目については、「73.3%」と全国平均、県平均を下回る結果となった。

そこで、学校経営の基本理念を「生徒、教師、保護者、地域が相互にパートナーとして一体となり、いい音を響かせ愛を育む学校づくりを目指す。そのために、学校教育目標・教育方針を共有し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る」とし、その柱を「自己理解・

自己管理能力」とした。キャリア答申は「基礎的・汎用的能力」の内容について、次のように述べている。

基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理した。

この中で、「自己理解・自己管理能力」は自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。この能力は、子供や若者の自信や自己肯定観の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力でもある。また、変化の激しい社会にあって多様な他者との協力や協働が求められている中では、自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力がますます重要である。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要がある。

地域資源を本校の教育活動に有効活用し、地域施設、や地域の人的・物的な資源を組織的に把握・整理することで、計画的に教育活動に生かす。生徒の学びを教科書の教材だけにとどめず、地域や社会とつなぐことで、地域と学校との連携を工夫することが求められる。本校における教育課程の編成状況を見直し、カリキュラム・マネジメントを推進し、より特色ある教育課程を編成し、生徒の「自己理解・自己管理能力」を育む指導方法について研究するために、本主題を設定した。

III 研究目的

本校の全教育活動を、特定の教員だけの努力だけではなく、多くの人が関わり、学校全体や地域ぐるみで計画的に行い、その成果を分析して改善を図ることで、教育の質を高め、子供たちに自己理解・自己管理能力

を柱として、必要な資質・能力を育むために実践する。

IV. 実践研究

今年度より学校運営協議会（コミュニティスクール）を設立し、「学校教育における外部人材（教育ボランティア）」の公募を行った。多様な人材が学校現場に参画できる環境を整備する取組である。地域と連携して外部人材や教育資源を活用するという視点が重要で、生徒の成長には、社会や地域とのつながりも欠かせないものである。地域と連携した教育課程の編成は、教育の質を高めていくと考えられる。

そこで、「地域人材活用計画」を作成し、地域の特色を生かした教育課程を展開することで、学校内だけではなく、保護者や地域の人々等を巻き込むことで、授業改善等に生かす。

【具体的取組】

1. 保護者と連携した「キャリア教育講演会」の取組

変化の激しい時代において、保護者と共に講演会という形で将来について考える機会をもつとよいという想いから、PTA主催により開催に至った。中学生生活の中で将来へ繋がる力をどのように身に付けていくか親子で考えるきっかけとなった。講演内容及び講師はPTA役員と相談し、校長が選定した。

- ・R4 金沢工業大学教授 白木みどり氏
「未来社会が君を待っている
～AI社会をどう生きるか～」
- ・R5(株) 芝寿司代表取締役社長 梶谷真泰氏
「人はなぜ働くのか～将来のために今できること～」
- ・R6 パリオリンピック 2024 水球日本代表
新田一景氏（本校卒業生）

講演会では、見方・考え方は違って当たり前であり、色々な考え方を知ることが大切であること、これからは、答えがない、あるいは答えが一つではない社会を生きていくことになり、納得解を見つけることが大切になること、多様性がキーワードになること等、理解を深めることができた。

これからの日本の将来を担っていく生徒のキャリア形成の一助になればと考えている。キャリアを見つめ直した生徒が、夢や目標をもち、自分の将来を実現してほしいと願う。



【生徒の振り返り】

- ・人間は可能性が無敵大だと感じた。自分も未来を変えられるかもしれないと聞いて心が打たれたので、これからは、中学生の時期も自分が携わっている係にもしっかりと取り組みたい。

【保護者の感想】

- ・夢や目標をもち、自分の将来を実現するために邁進してほしい。
- ・自分を見つめて自分を知り、自分にしかない所や優れているところを伸ばしていけたらと思う。未来をつくっていくのは自分次第。どこに向かうかは未知な今かもしれないが、中学生時代を大切に意味ある人生を歩んでほしい。

2. 生徒、教師、保護者、地域が一体となった

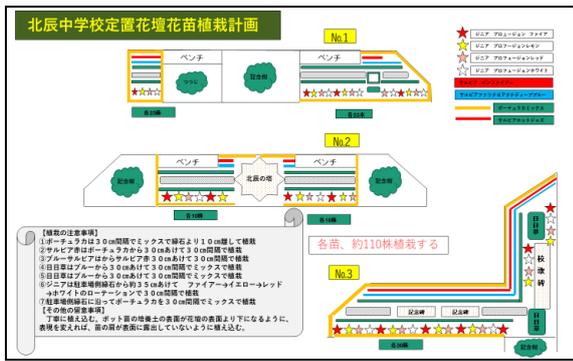
「花いっぱい学校創造へのプロムナード」の取組

本校では、学窓に集う生徒一人ひとりの情緒・情操の安定と学業生活の向上に資すべく意図をもって継続的に花壇づくりを行っている。花壇造成・コンテナ配置等諸作業においては、生徒・教職員・保護者・地域ボランティア等の連携、協力の下に実行した。花のもつ力を最大限に生かした教育を推進すると共に協働の精神を具現化し、地域連携の充実発展に努めている。



【具体的な花壇経営の内容】

- ・生徒と教職員、保護者の連携によって土づくりから植え込み、施肥、除草、水やりなどの作業を行う花いっぱい運動を展開
- ・生徒たちが花を鑑賞するだけでなく、日常的な枯花取りや除草活動を奨励
- ・地域社会の人たちの散歩ルートでもあり、その鑑賞にも資することが出来るよう配慮
- ・花いっぱいの維持に心掛け、枯れたり折れたりした場合の補植
- ・PTA 活動の一環としての夏期休業中の早朝6時30分からの水遣りや除草活動
- ・休日、全校生徒並びに保護者・教職員による愛校活動として、校地内美化活動を展開



昨年9月に、近隣の幼稚園から心温まる手紙と幼児の絵が届いた。「校長先生へ いつもお世話になっております。子ども達が、毎日中学校へのお出かけを楽しみにしております。お礼をかねて、子ども達よりささやかなプレゼントを作成しましたので、送ります。もも組より」春に定植した花々が咲き誇る花壇。同じように植えたつもりでもそれぞれの主張が見える。生徒たちや地域の人が花を見て「きれいだね」と、笑顔がほころぶ瞬間が、きっと心の栄養となっていると信じていたい。花壇づくりを通して、私は「花には限りない力」があることを確信した。1本の花苗に、ひとひらの花弁に生命が息づいているように、一人一人かけがえのない生命をもつ生徒の今をしっかりと見つめ、輝かしい未来に向けて力強く羽ばたいていけるよう全身全霊を込めて、日々の教育実践に邁進する決意を新たにしました。



3年間、本校の花壇経営にご指導、ご助言いただいた故中島満氏に感謝いたします。

【生徒の振り返り】

- ・朝、学校に着いて見る花々は、「今日も一日がんばって！」と応援してくれているようで、私も元気をもらえた。これからもたくさんの北辰生に元気を与えられるよう、美しい花壇をずっと受け継いでいってほしいと思う。
- ・1年生の頃は、花屋の人が植えるのかと思っていた。自分達で花の苗を植えて、水やりをするなど大変だったけど、花を植えることは、この学校を良い学校にするためだと分かった。

【保護者の感想】

- ・花苗を植える時、生徒たちが耕してくれた花壇の土が、とてもフカフカだったことに感激しました。その土に植えるのはとても気持ちよく、その土で元気に育ち、キレイに咲いた花にはとても勢いがあるように感じられ、また感動させられました。

3. 地域ボランティアによる本の読み聞かせの取組

(1) 図書館教育の目標

- ①読書習慣を身に付け、多様な考えや生き方に触れ、豊かな思考や感性の基礎を育む。
- ②読書活動を通じて様々なことに興味関心を持ち、主体的に学ぼうとする意欲を喚起する。
- ③自らの課題を解決するために必要な情報を収集・選択・活用する力を育てる。

(2) 読書指導のねらい

本校では、落ち着いた雰囲気の中で、1日の学習をスタートできるよう、全校で朝読書を行っている。多様な本と出会い、生涯を通した、豊かな読書活動につながることを願う。また、計画的に朝読書指導を行うことによって、生徒の豊かな心を育むと共に、生徒にとって魅力的で楽しい学校づくりを実践する。

(3) 朝読書の工夫

朝読書を推進し、自主的な読書習慣を養うために、地域の読書ボランティアによる読み聞かせと、学校司書によるブックトーク（月1回 朝読書の時間）を計画的に行っている。また、学校図書館を利用した各教科等の授業での利活用を促進するために、授業に関連した絵本をボランティアの方に各クラスで読み聞かせをしていただくことで、学習内容への理解が深まった。

授業に関連した読み聞かせやブックトークは、普段手に取らない本を手にとる動機付けとして有効だった。また他教科との横の繋りや次学年との縦の繋がりに気づき、学びが深まった。



「絵本で知るSDGs」
授業に関連した本の読み聞かせ

4. 道徳科の授業の工夫

【主題名】ふるさとのために

C(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

【教材名】「ぼくのふるさと」（出典：『平成3年度いま中学生が訴えたいこと』青少年育成国民会議）

【ねらい】

ふるさとを愛し、ふるさとのためにできることをしたいと願う作者に共感することで、郷土意識を深め地域の人々を敬い、進んで関わろうとする態度を育てる。

生徒にとって、毎日暮らしている地域は当たり前のように感じており、良さを感じる事が難しい。そこで、地域の発展に尽くしている公民館の館長をゲストティーチャーとして招き、地域のよさや強み、困ったことや課題についてお話いただいた。地域の方の話を書くことで、地域の課題や自分にできる解決策を考えるきっかけとなった。



授業の終末では、自分自身を振り返り、ふるさとのために役に立とうとする気持ちが高まっていた。

【ゲストティーチャーの話より】

・昨日も豪雨でしたが、助け合いができる、そんな町になってほしいと思っている。公民館では、ワークショップを行い、100人くらいの参加がある。そこで、みんなが考える強み、自慢がある。地域の困ったこと、課題について、地域の人みんなで考えていきたい。それが地域を作っていくこと。70年間お世話になった地域にお返しがしたい。

【生徒の反応】

・できるだけ地域の声に耳を傾けたい。「じょんから」など、自分たちが地域に関わるチャンスがあるので、関わっていききたい。
 ・大切なのは挨拶。そして、遊ぶ、しゃべる、協力するの3要素。この3つと挨拶をしたら、地域の人が喜んでくれると思うから。

5. 職場体験活動の取組

本校の職場体験は、これまで地域に大変馴染んでいた。しかし、感染症の影響で、3年間、実施されなかった。生徒達は、地域の中で自分の将来のために学習を行う機会が減少し、働くことへの不安を抱えたまま職業に就くことになる。そこで、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実への期待から、職場体験を復活させようと取り組んだ。事業所との打ち合わせでは、生徒たちは、事前に事業所を訪問し、当日の集合時間や場所、持ち物、服装、事業所からの要望を確認した。そこでは、生徒自身が作成した「履歴書」を提出し、自己紹介と挨拶を行った。「履歴書」には、趣味や特技、資格、得意な教科、健康状態だけではなく、自分の良いところを記入させた。「私の良いところは、周りを見て行動するところ」「計画性がある」「人に優しく接する」「体力がある」等、自分のよさに気付くよい機会となった。事前の打ち合わせでは、緊張した表情をしていた生徒も多かったが、当日は、徐々に仕事にも慣れ、積極的に取り組み、責任をもって自分の役割を果たそ

うとする姿が見られた。

【生徒の振り返り】

・工務店の体験はとても楽しかったし、色々学べた。なぜなら直接、現場に行ったからだ。現場では、新築の床を修復したり、建設途中の家の中に入って実際に棚を塗ったり階段を塗ったりした。「階段は一番目立つから」と言われたので、とても丁寧に綺麗に塗った。この体験を通して学んだことがある。木材を塗るときに、この家に人が住むのかと思うと、とても嬉しい気持ちになったので、誰かのために役に立つということが大事だと分かった。

V. 成果と課題

令和5年度末実施の学校評価アンケートでは、「将来の夢や目標をもつことの大切さ」の項目について、肯定的な回答をした生徒は「96%」、「自分には良いところがある」の項目については、「82%」と上昇した。その他、「将来、人の役に立つ人間になりたい」の項目は「95%」、「やればできると自分自身の可能性を信じて前向きに行動している」の項目についても「83%」という結果となり、生徒の中に潜んでいた自己理解・自己管理能力が目覚め、学ぶ意欲を引き出すことができたと考えられる。その理由として、地域資源の活用によりコミュニティが拡大。職業や社会に対する視野が広がり、未来に向かって前向きに考える気持ちが高まったと考えられる。授業では、たとえ間違っても自分の考えを伝える姿が見られ、学ぶことと社会との繋がりに関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら取り組む等、変容が見られた。

一方、保護者アンケートでは、「将来について話し合っている」の項目が、「74%」となっており、学校運営協議会や家庭との連携が更に求められる。

実践研究を通して生徒たちは、今、学んでいることと地域・社会とのつながりを感じることができ、「自分の力で人生や社会をよりよくできる」、「人間は可能性が無限大。自分も未来を変えられるかもしれない」と実感していた。この意欲があれば、変化の激しい社会においても、困難を乗り越え、未来に向けて進むことができると信じている。今後もカリキュラム・マネジメントを推進し、生徒、教師、保護者、地域が相互にパートナーとして一体となり、いい音を響かせ愛を育む学校づくりを目指して学校運営を行っていききたい。

最後に、私の学校経営を支えてくださった石川県教育委員会、白山市教育委員会、保護者や地域の方々、本校の職員、家族に感謝の気持ちを捧げたい。